

# CAMPUS KOSEI

キャンパス こうせい

vol.20



新年の集い



ものづくりミニ新幹線



選抜大会出場

## Contents

### ■ 八戸大学

- ・ 合同企業研究会
- ・ 宮農大学校と連携に関する協定書締結
- ・ 八戸ビジネスセミナー
- ・ プロ入団2選手抱負を語る

### ■ 八戸短期大学

- ・ 就職合宿
- ・ 保育者養成懇談会

### ■ 光星学院高等学校専攻科

- ・ 介護福祉科研修旅行
- ・ 赤十字救急救法救急員養成講習会

### ■ 光星学院高等学校

- ・ 選抜の切符奪回
- ・ ゴルフ日本代表 大沢君 活躍
- ・ 北海道大学2名合格

### ■ 光星学院野辺地西高等学校

- ・ 板橋かずゆきさん コンサート
- ・ ものづくりクラブ ミニ新幹線発表会



合同企業研究会



# 平成23年 新年の集い

学校法人光星学院「新年の集い」が、2011年（平成23）年1月10日（月）正午から八戸パークホテルパークホールにおいて開催され、来賓、法人役員、外郭団体代表、教職員の総勢約360名が出席した。

会場では開宴30分前から箏曲・尺八演奏が響き、新年らしい雰囲気の中で賑やかな集いとなった。

まず初めに八戸大学木鎌耕一郎准教授（司祭代理）による新年の祈りが行われ、

続いて中村覺理事長が、「昨年、世相の暗いイメージが否めない中であって、学院に集う子どもたちの成長と活躍は、私たちに未来の明るさを実感させてくれたが、さらなる少子化の進行を踏まえた新しい施策を展開しなければならない。そのためには、法人・大学・短大・高校・幼稚園の一体化による改革を実現させる必要があり、教職員の主体的な参画を強く要請したい。何よりも重要なことは、一人一人が与えられた任務に120%の力を発揮することである。」と年頭の挨拶を述べられた。

続く法官新一常務理事の乾杯の音頭によって、和やかに2011年がスタートした。



平成 22 年 度

## 八戸大学・八戸短期大学合同企業研究会

12月2日(木)に八戸大学3年生、八戸短期大学1年生を対象に就職活動の第一歩である八戸大学・八戸短期大学合同企業研究会を、八戸プラザホテルアーバンホールにおいて38社の企業の方々の参加をいただき開催した。

この合同企業研究会は八戸大学、八戸

短期大学がそれぞれに4月から実施している就職ガイダンスの締めくくりとなるもので、学生たちが直接、企業の人事担当者と面談できる場であり、なおかつ就職先を決定する際の大きな要因の一つになるイベントでもある。

学生たちから採ったアンケートを基に

依頼し、参加していただいた企業は県内外38社。当日は、八十余名の学生たちが会場に足を運んだ。

学生たちは最初、緊張感からくる戸惑いなどが見受けられたが、今までの就職ガイダンスや就職合宿で培った経験を活かし、興味・関心のある企業のブースを積極的に訪問し、「来年度の採用状況」、「求める人材」、「事業内容」など人事担当者の説明に熱心に耳を傾けていた。

終了後、人事担当者からは「例年になく積極的な質問をする学生が多い」、「真剣に説明を聞いてくれた」、「話した感じでは意欲が高く、高評価できそうな学生さんが多い」という感想が多く聞かれた。

一方、学生たちからは「希望する会社の話が聞いてよかった」、「求める人材がわかった」、「目指す会社の理解ができた」など、間近に迫った就職戦線に意欲をにじませる感想が多かった。就職支援担当者としては以前にも増して厳しさが予想される中、一人でも多くの学生たちが希望する会社に内定できるよう、あらゆる面でのサポートを考えているところである。



## 営農大学校と連携に関する協定書締結

平成23年度に向け準備を進めている「農業経営プログラム」の開設にあたり、「青森県営農大学校と八戸大学との連携に関する協定」が、平成22年11月8日、総合研究所市内オフィスで行われた。来年度から教員の相互派遣や相互講義などに着手し、取得単位の互換や編入など連携を強化。今後、経営能力を備えた農業者や農業分野の起業家を育てていく。

当日は青森県営農大学校の津島正人校長と鈴木学長が協定書に調印、津島校長は「畑作や畜産などの分野を中心に、より実践的な農業者を育成したい」、鈴木学長は「付加価値が高い農産物が提供できる農業が必要。1次産業の可能性を追い求める」と抱負を語った。





# 証券経済学会第74回全国大会



11月6日、7日、八戸大学会館・総合実習館を会場に証券経済学会第74回全国大会が開催された。

同学会は日本で唯一、証券経済全般の研究を行うもので、東北地方での開催は学会創立以来、本学が初めて。証券経済

学などを研究する全国の大学教員や金融関係者ら延べ180人が参加した。

基調講演では、慶應義塾大学教授で金融庁金融研究センター長の吉野直行氏が「日本とアジアの中小企業金融と産業の活性化」をテーマに中小企業の現状など

について報告した。また、青い森信用金庫の小野隆理事長、アイリスオーヤマ(株)の大山健太郎社長が東北経済の活性化や地方金融機関の役割について報告した。

ワークショップではフランスからの外国人研究者なども招きアジアの金融市場の現状と課題などについて議論を交わした。

また参加者は、好天に恵まれ紅葉で色づいた美保野キャンパスで写真を撮ったり、懇親会ではせんべい汁などの郷土料理が振る舞われるなど、県外からの参加者に八戸大学と八戸市を印象づけることができた学会となった。





# はちのへコミュニティビジネスフォーラム 2010

11月11日、八戸商工会館大ホールを会場に、「はちのへコミュニティビジネスフォーラム2010」を開催した。総合研究所と青森県、特定非営利活動法人 NPO

推進青森会議の共催によるフォーラムは県内各地域で開催され、県内における認知拡大と活躍するコミュニティビジネス事業者、企業、行政の意見交換の場を創

出することを目的としている。

コミュニティビジネスは地域課題を住民が主体的に解決するための活動として注目を集めており、当日は約100名が参加した。

フォーラムでは、青森県商工労働部経営支援課長井上孝志氏、八戸市商工労働部次長大村典康氏の挨拶に続き、大谷真樹総合研究所長が「繋がる力で地域の人材・資源は輝く～ソーシャルメディアの可能性～」と題して基調講演を行った。

パネルディスカッションでは、「地域力・人間力がビジネスを創る～コミュニティビジネスの魅力～」をテーマに、ノースビレッジ農園合同会社代表栗谷川柳子氏、NPO法人ACTY理事長町田直子氏、nagisa café フードクリニック主宰下田尚子氏がそれぞれの立場からコミュニティビジネスの魅力を発信した。

フォーラム終了後は会場を総合研究所リカレントルームに移し、名刺交換会を実施、約70名が情報交換を行なった。



## 観光大学講座はじまる

1月15日から、あおもりツーリズム人づくり大学はやて2010「10八戸観光大学」が開講した。青森県と総合研究所の共催で、東北新幹線新青森駅開業をによる誘客の推進や、外貨（地域外からの収益）を稼げる地域力・企業力・人間力を高めることを目的に開催し7年目の今年度が最後となる。

受講者は八戸市内の経営者、幹部者などを中心に25名。初回講義では、アグリの里おいらせ代表取締役若米地義之氏が「地域の活性化と観光農園の取組について」と題して講義を行なった。年間集客30万人、年に30%～40%の増客、大人気の農園レストランなどの話に受講者は熱心に耳を傾けた。

今後、日本航空旅客営業企画

部長加藤淳氏、アルファリゾート・トマム総支配人佐藤大介氏などを講師に迎え全12講義と、八戸ポータルミュージアム

“はっち”と横丁文化見学の現場研修が行なわれる。



# ビジネス学部公開講座開催

平成22年12月11日(土)、「ビジネス学部公開講座」が総合研究所市内オフィスを会場に開催された。講座は、社会人教育から会計・情報技術など幅広い分野から7講座が開講され、八戸市民の方や高校生などが参加した。各テーマは次のとおり。

1. 社会人のためのビジネス教育 (丹羽 浩正)
2. 大学におけるe-ラーニング活用事例の研究 (村本 卓・坂本 貴博)



3. 我が国の土地問題と土地政策 (奈良 卓)
4. まちづくりの会計学 (田中 哲)
5. シーフードをめぐる動態 (服部 昭)



6. Mindfulness and Contemplative English Education (バリー・グロスマン)
7. 日常生活や仕事に生かそう会計の知識 (松本 寿文)

特に高校生の参加が多かった「2. 大学におけるe-ラーニング活用事例の研究」では、八戸大学での取組事例や最新技術動向が紹介された。受講者からは、「e-ラーニングについて知ることができて良かった」「今後は、大学だけではなく高校や中学校などでも活用されるべきだと思った」と感想をいただいた。

## 起業家養成講座の修了生

### 活躍を紹介！

総合研究所では、昨年4月から「10年で100人の起業家を青森から」のテーマを掲げ起業家養成講座を開講し、受講生の中から既に起業家（企業の第2創業を含む）が誕生し、それぞれ活躍している。

#### ノースビレッジ農園合同会社



代表 栗谷川 柳子氏  
(三戸町)

##### ●受講後の活躍

合同会社設立。県雇用対策事業受託で正社員2名雇用。

##### ●業務内容

青森県産の希少価値の高いこだわり野菜・果物を主に首都圏の高級レストランに販売。

##### ●今後の抱負など

首都圏レストランでの県産野菜・果物の品質の評価は高く、その評価をもって生産者のモチベーションを高めながら、双方のニーズに応える形で業務拡大をはかりたい。夢を持ち続ける企業でありたい。

##### ●講座についての感想

一緒に受講した同期は講座受講中も講座修了後も、精神面でも大きな支えです。起業に向けての背中を押してもらいたくさんの出会いもあり感謝しています。

#### 株式会社ミヤノ企画



代表取締役 宮 芳子氏  
(八戸市)

##### ●受講後の活躍

個人事業主から株式会社へ拡大。県の「緊急雇用創出対策事業（地域人材育成プラン）」の一環として11名の研修生を雇用。

##### ●業務内容

デジタルコンテンツの制作（主に電子書籍の出版）

##### ●今後の抱負など

社員の力を集約しどこまで業務を発展させ会社を豊かにできるかというところを目指す。

##### ●講座についての感想

起業で一番大切な自身の内部を刺激してくれる講座でした。ポテンシャルの位置をどこにもっていくか、起業イメージをどこまで高く見るかに注力した内容の講座でした。



# 大学・短大外郭3団体合同懇談会開催

八戸大学・八戸短期大学の外郭3団体合同懇談会が、2月5日(土)八戸プラザホテルで開催され、両学の後援会・同窓会・父母の会の役員約90名が一同に会した。合同懇談会は、大学・短大の状況を報告することと、3団体役員の懇親を深めることを目的に毎年実施されている。懇談会では3団体を代表して山田政信八戸大学後援会会長が、大学の30周年記念事業の実施にあたり大学・短大の外郭3団体からご協力を頂いたことに対し御礼を述べ、また今後も引き続き大学・短大

を支援していきたいと挨拶された。

続いて本学院からは中村覚理事長が、大学30周年記念事業として大学3団体からのイノベーション基金への寄贈に対して御礼を述べ、基金を活用した教育支援プログラムや寄付講座の開設・施設の整備が進んでいることを報告した。また、大学野球と高校野球の活躍も報告し、今後ともご支援・ご協力を賜りたいと挨拶した。

蛇口浩敬大学・短大運営会議議長から、大学・短大の認証評価終了や教員免許更

新講習の開催、総合研究所の地域貢献など大学・短大の近況について報告がなされ、大谷真樹総合研究所所長より「起業家養成講座」等の現況報告と今後の活動計画が説明された。

その後、中川原俊雄八戸短期大学後援会会長の乾杯の発声とともに、和やかに懇談が行われた。

出席した役員は、両学や各団体の近況について活発に情報を交換し、有意義な合同懇談会となった。



## 「八戸大学」OB&OG訪問 part20



橋本 冠さん  
(12回生)

### プロフィール

埼玉第一高校（現 開智高校）卒。大学卒業後は、商社勤務を経て、プラスチック製品の製造を行なっている株式会社アリカ（埼玉県川口市）で営業と工場管理業務にあたっている。

**Q：学生時代の思い出を教えてください。**

A：テキサス州のセントラルテキサスカレッジへ8ヶ月留学しました。出国

のときは会話すらままならず、単語を並べるだけが精一杯でした。時が経つにつれ会話力も少しずつついていき、友人、ホストファミリー、いろんな方々とコミュニケーションがとれるようになりました。現在の仕事では、時々ですが英字FAXやメールが来た時、全て私が担当し対応しています。

**Q：プラスチック製品とはどのようなものですか？**

A：高性能で機械の部品などにも使えるようなプラスチック「エンジニアプラスチック」を使った製品を製造しています。主に弊社では、マジックマーカのキャップやホルダー、給湯器の減圧弁の部品、バルブ系、コネクターなどを製造しています。

**Q：同窓会大会や秋桜祭(平成22年10月)にご来場いただいたとのことですが、いかがでしたか？**

A：学部や校舎が増え、より一層大学らしくなったと思います。私が入学した4

月、大学会館が出来たばかりで立派な校舎だと思いましたが、新校舎（総合実習館）もきれいで立派ですね。同窓会大会は家族3人で出席しました。久しぶりに再会する教職員の皆様、そして学生さんとも話ができて楽しいひと時を過ごせました。

**Q：最後に卒業生・在学生にメッセージをどうぞ**

A：皆さん、大学生活は楽しいですか？皆さんは4年という自由な時間を持っています。4年間何をしたいのか目標を持って頑張ってほしいと思います。学問においても就職活動においても、教職員の皆様は熱意のある学生に対し、親身になって考えてくださいます。そこが、八戸大学の良いところだと思います。

大学時代の友人は、一生の友人と思っています。また、これから仕事などで出会うことがあるかもしれません。埼玉県と青森県とのパイプを繋いでコミュニケーションが取れたら、なお嬉しいですね。どうぞよろしくお願い申し上げます。

# プロ入団2選手抱負を語る

あき やま しょう ご  
秋 山 翔 吾

横浜創学館高校→八戸大学ビジネス学部  
埼玉西部ライオンズ 背番号55

必ず打ってやる！気合十分。持ち合わせる力を全て出し切った一打。全日本大学野球選手権大会、対東洋大戦で打ったホームラン。チームを一気に盛り上げたのである。秋山選手は、小学校1年生から野球と出会いこれまで続けてきた。その時の夢は「プロ野球選手」と話していたが、ありきたりの小学生の台詞でしかなかった。八戸大学へ入学し、1年生か

ら数多くの試合に起用され、これまでの通算打率は3割6分。この背景に、とにかくバットを振り続けた日々が結果に繋がったという。目標の選手はイチロー選手。走・攻・守のバランスの取れた野球選手を目指す。八戸大学への感謝と誇りを胸にプロの舞台での活躍を誓ってくれた。

## 後輩へのメッセージ

1. 自分の軸を持て！
2. 計画を立てろ！
3. 実行し、修正し、また実行！

しお み なか ひろ  
塩 見 貴 洋

帝京第五高校→八戸大学ビジネス学部  
東北楽天ゴールデンイーグルス 背番号11

平成22年10月24日東北地区王座決定戦で東北福祉大学と対戦し完封勝利を収めた。ドラフト指名4日前のことだった。豪腕塩見投手は、入学早々、疲労骨折という致命的な怪我をし、野球を辞めようと思ったという。長期療養の甲斐があった、順調に回復するものの、練習不足という精神的負担は思い出さくはないほど辛い日々だったと語る。彼は、逆境を見事に克服し高校時代から大きく上回る147kmをマークし、鍛え抜かれた強靱な肉体と持ち前のコントロールで夢を現実へ引き寄せたのである。目標とする選手は工藤公康投手。ファンに親しまれ、永年にわたって観てもらえる投手になりたいと、既にチャンピオンへの意気込みを感じさせてくれた。投手独特の泰然とした表情が印象的であった。

## 後輩へのメッセージ

1. 意識を高く持て！
2. 諦めず、努力をすれば  
結果はでる！
3. ON・OFFの  
タイミングを大切に！



## 起業家養成講座特別セミナー 「八戸農業ビジネスセミナー」開催

1月29日(土)、起業家養成講座特別セミナー「八戸農業ビジネスセミナー」が八戸商工会館で開催された。農家や農業関連ビジネスに関心のある方々約200名が参加した。会場には若い方も多く見られた。

講演では「農業ビジネスの可能性と儲かる農業経営」と題して、青森市出身で銀行マンから農業ビジネス会社経営に転身した(株)ナチュラルアート代表取締役鈴木誠氏が、最近の農業経営の動向、農業者の意識改革の可能性などについて熱く語り、会場を埋め尽くした参加者は熱心

に耳を傾けた。

その後、ビジネス学部長丹羽浩正教授が「農業ビジネス教育への挑戦」と題し、

来年度から始まる農業経営プログラムなどについてショートスピーチを行なった。





# 岩手県北・青森県南 平成22年度 県際交流・連携セミナー

平成22年度 岩手県北・青森県南 県際交流・連携セミナーを2月6日二戸パークホテルで開催した。岩手県北・青森県南の三圏域の交流・連携を一層進め地域経済の活性化を推進することを目的に本年度は「食」をテーマに開催。基調講演では当研究所客員研究員で㈱ノースブレッジウエルネス代表取締役藤代典子氏が「食と健康-北東北発 滞在型ヘルスツーリズム創造に向けて-」と題し、奥

入瀬ウエルネスラボで行なうマクロビオティック食事に基づいた半断食や滞在型アンチエイジングなどの活動を紹介した。

パネルディスカッションでは、「食と食文化による地域資源の掘り起こしと発信」をテーマに藤代氏、二戸市の若手料理人の会会長の濱豊氏、

久慈まめぶ部屋 部屋頭 小笠原巨樹氏、コーディネート役の中島美華氏（八戸せんべい汁研究所主任研究員）と助言者である大谷真樹所長が、「食の力で人を集め、また楽しませることができる」と食による地域活性化の可能性や地域資源の新たな掘り起こしについて意見交換した。



セミナーには岩手県の宮舘副知事、小保内二戸市長を始め食産業関係者、食やまちづくりに興味のある方々約100名が参加。セミナー修了後に行われた交流会では、二戸市の食材を使った料理が並び、また久慈市の郷土料理である「まめぶ」の振る舞いも行われ、講師、パネラーを囲んで交流を深めた。



## 毎年恒例

## 就 職 合 宿

毎年恒例の就職合宿が、平成22年11月6日(土)・7日(日)、1泊2日の日程で三沢市古牧温泉青森屋にて開催された。毎年八戸大学との合同で行い、今年で16回目を数える。平成24年3月卒業予定の学生が対象で、今年度は、ライフデザイン学科1年生31名が全員参加した。この就職合宿は、学生たちの就職に対する漠然とした思いを具体的、現実的なものに引き上げる有意義な行事で、就職支援でも年間で最大の行事となっている。講師には、ユニバース人事グループ長の亀卦川氏、

みちのく銀行人事部の岩澤氏、みちのく銀行人事部の牛崎氏、キャリアコンサルタントの渡部氏、株式会社ディスコ東北支社長の菅野氏ほか2名をお招きした。初日は、「人事担当者が求める“人材”のポイントについて」、「就職活動で求められるマナーについて」の講演があった。また、就職活動の要となる応募書類（自己分析、エントリーシート、履歴書等）の記入方法と添削の指導を受けた。また、社会人とのセッションを行い、学生と社会人の違いについて学んだ。2日目では、前日の振り返りをした後、面接ロールプレイング（面接マナー、個人面接、集団面接）を行った。最後に、これからの就職活動にむけての決意表明を1分間ずつ行い、2日間の日程を終了した。参加したライフデザイン



学科1年生の学生は、この集中合宿で、就職の厳しさの一端を知り、自分たちに不足しているスキルや心構えを学んだ。厳しい時代だからこそ本物の力を養い、企業の求める人材として就職戦線に立ち向かってほしい。



## 平成22年度 八戸短期大学保育者養成懇談会

平成22年12月2日(木)、八戸プラザホテルにて、幼児保育学科主催の「平成22年度八戸短期大学保育者養成懇談会」を開催した。この保育者養成懇談会は、幼児保育学科が保育実習と施設実習でお世話になっている三八・上十三・むつ地区お

よび岩手県北の実習施設関係者を対象に、本学が持つ知的財産の情報提供等を行い、養成校と実習施設の協同を図っている。今年度の保育者養成懇談会シンポジウムでは、「保育者養成における就職の現況について～これからの展望と課題～」をテーマに選定。就職の全国的な動向を参考にしながら、今後の八戸地域における就職並び

に卒業後教育や研修等在り方について参加者と共に検討し、今後の協働を図っていくための場とした。

外崎学長補佐の開会挨拶の後、シンポジストに長坂保育園川口司園長、茶々すずや保育園迫田健太郎園長、東北生活文化大学短期大学部生活文化学科子ども生活専攻三浦主博准教授を招き、コーディネーターを同学科上村裕樹准教授が務め、参加者はシンポジストの貴重な意見に耳

を傾けていた。

地域全体を巻き込んだ高等教育機関との具体的かつ緊密な連携は、全国的にもあまり例を見ないものであり、八戸地域が全国において、保育における先進的教育の地域となるべく努力をしていく。





# 光星学院高校専攻科

## 介 護 福 祉 科 研 修 旅 行

今年の研修旅行では、都内にある盲養護老人ホーム聖明園曙荘と特別養護老人ホームありすの杜きのこ南麻布を見学させた。

曙荘では入所者の9割が全盲で、その原因は、交通事故や糖尿病による中途失明である。

しかし利用者は依存が少なく、生活行為や趣味活動等を行っている。

そのためにいろいろの工夫がなされ、たとえば食堂や入浴室に行くまでの手すりには点字が付いており、それに触れることで目的の場所に行くことができる。

歩行も廊下でお互いがぶつからないように「はい、はい」と声を出しながら歩きます。

QOLでは、週に1回の書道や素焼きの陶芸クラブ等に参加することで、触覚機能も高められている。

その他多方面に工夫がなされ、利用者同士の会話がはずみ、生き生きとしていた。

また、ありすの杜ではバリエーションを学んだ。

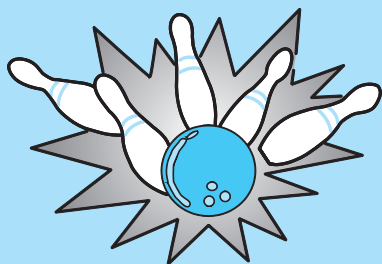
バリエーションは、認知症高齢者コミュニケーション方法による関わり方である。

これには3つの要素「人と接するための基本的な態度」「倫理」「テクニック」があり、私は実際に利用者に関わったことで、怒りや喜び・感動を認知症高齢者と介護者が分かち合うことがバリエーションだということを学んだ。

今回の研修旅行で、施設での工夫・バリエーションによって利用者に質の良いサービスを提供できることが分かり、卒業後には多くの研鑽を積み重ね利用者のQOLを高めていきたい。



### 学生会だより ボウリング大会



12月22日(木)午前10時、専攻科全学生が八戸市内にある、ゆりの木ボウルに集合しました。

3～4名ずつ各レーンに分かれ、山西校長代行の始球式を合図に、平成22年度のボウリング大会がスタートしました。

2ゲームのトータルスコアで争われる大会ですが、投球フォームが綺麗で高得点を出す学生や、初めてのボウリングでガーターを連続する学生など、様々な学生がいて好プレーあり珍プレーありの見ていても楽しい大会でした。

ちなみに男子の優勝者は自動車科1年 鷹幸 剛 君(光星高出身 トータル274)、女子の優勝者は介護福祉科1年 沼辺 晴夏さん(野辺地西高出身 トータル237)でした。



# 赤十字救急法救急員養成講習会



私たちは平成22年12月に延べ4日間の赤十字救急法救急員養成講習会を受講した。

心肺蘇生法など一次救命処置や救命手当のほか、傷や骨折の手当、搬送法の一次救命処置以外の応急手当も学んだ。

最終日には、これらの手当を実践する総合演習が行われたが、切迫した

空気が漂う中、傷病者を目の前にして頭が真っ白になってしまった。

しかし、目の前の傷病者を助けようとする意志で何ができるのかを考え、手順通りではなくてもその場にあった処置を責任もって行うという指導者からの助言を得ながら、今からが出発であると心を新たにした。

今後、介護福祉士として冷静な判断が求められるが、心停止した傷病者の救命率を向上させるためにも救命の連鎖である「迅速な通報」「迅速な心肺蘇生法」「迅速な除細動」「迅速な二次救命措置」が途切れることなく、一步勇気を踏み出して救命処置を実践していきたい。

## 自動車科校外実習 & 教育懇談会

平成22年11月8日から19日まで、自動車科1年生の校外実習を行った。

八戸市内及び近郊のディーラー・民間整備工場・光星学院自動車整備工場など計15社で、約2週間プロの仕事を目の当たりにすることにより、これから2級自動車整備士を目指す学生たちには良い刺激になった。

実習を終え学校へ戻った学生たちには変化がみられ、資格を得ることの重要性に気づいたり、あるいは社会人としての

一步を踏み出したような感じを受ける学生も見られた。

校外実習終了後、11月26日には八戸プラザホテルにおいて、実習でお世話になった事業所の方々や、日頃お世話になっている各企業の方々をお招きし「教育懇談会」を開催した。

青森県自動車車体整備協同組合の理事長様はじめ11社の企業代表の方々と、専攻科PTA後援会会長様や同窓会会長様にもご参加いただき、本校の教育活動に

対しての貴重なご意見・ご要望をお聞かせくださいました。

また、就職（採用）に関しては基礎学力はもとより、挨拶・元気・明るさ・素直さなどが求められているというお話もありました。

専攻科自動車科では、いただいたご意見を今後の教育活動に活かし、「就職に強い」学生を育てよう指導していきたい。





## 選 抜 の 切 符 奪 回 ！

平成20年度秋季青森県高校野球大会において、3年連続の優勝を達成することができました。4月から監督が替わり、春季大会・夏の甲子園予選を共に準優勝と非常に悔しい想いをした我々にとって、大きな不安を消し去る勝利でした。大会前の下馬評から優勝候補の筆頭でしたが、勝つというのは簡単なものではありません。綿密な計画をたて、厳しい練習を乗り越え掴んだ勝利でした。

しかし、東北地区からは2校しか選ばれない選抜甲子園大会に出場するためには非常に厳しい戦いがこの先にあります。強豪校揃いの東北大会でしたが、持ち前の打線が爆発し決勝戦まで駒を進めることができました。決勝戦で



は、宮城県代表の東北高校に敗れましたが、選抜甲子園の出場キップをほぼ手中に収めることができました。

今回、選抜甲子園に出場することになり、本校にとって5回目の選抜です。しかし、過去4度はすべて初戦で敗退しています。雪国のハンデとは言いたくありませんが、非常に調整が難しいのは事実であります。

全国で勝つというのは簡単なことではないと思いますが、光星高校の新たな歴史を刻むべく日々鍛錬し、挑戦したいと思います。

最後に、今回選抜甲子園に出場することになったのは、夏の県予選で準優勝に終わり本当に悔しい想いをした三年生のおかげであるということを忘れてはいけません。最後の夏の大会前に監督が替わり不安な想い



をしたにもかかわらず、未熟な私についてきてくれました。彼達の想いを力にして甲子園で光輝きたいと思います。応援宜しくお願いします。

硬式野球部

監督 仲井 宗基

## 留学生のチェンターさん発表

留学生のタン・チェンターさんは、この3月で、光星学院高等学校に来て1年になります。生活にも慣れ、毎日元気に勉強しています。11月1日から日本語で日記を書き始めています。12月22日には、全校生徒の前で二学期までの勉強の成果を日本語で話しました。

6月2日に、蛇口顧問と特進の先生方生徒達と青森県立美術館でローマ展を見たこと、6月から五十嵐先生にチューバを習っていて、吹奏楽部員としてコンクールで八戸市公会堂と青森県民会館に行ったこと、ボランティアで、平和病院や南山苑に行き、むつ湊駅のコンサートに出たことなど、上手な日本語で話しました。また、7月からいけばなのおけい

こを始めたことや8月には校長先生夫妻と八戸三社大祭、PTA研修旅行で岩手の中尊寺へ行ったこと、11月には青森県学生いけばな競技会で準優秀賞に選ばれたことなどを発表しました。

留学以来、ラジオや新聞などの取材を何度も体験していますが、だんだん日本語が上手になってきました。これからの勉強の成果にも期待したいと思います。

当日は、クリスマスの集いで、チェンターさんはハンドベル隊にも参加し、集いのあとカンボジアのことも交え、約15分間お話ししました。また、チェンターさんの話を受け、生徒会がカンボジアの姉妹への校内募金を呼びかけたところ、48,452円集まった。



# 修 学 旅 行

## 地域の歴史、気候風土に触れて

今回の修学旅行は、異なる地域の歴史、異文化に触れる事と平和学習を目的として11月15日から4泊5日で実施された。

沖縄では、中国の影響を色濃く受けた文化風習を、京都では、金閣寺、清水寺など日本の悠久の歴史に触れた。また、大阪では、なんばグランド花月でお笑いや吉本新喜劇を観覧し独特の文化を体験した。「お笑いブーム」も手伝って、大喜びだった。生徒たちは県外の文化風習に触れることが無く育ってきている。彼

らが、この修学旅行を通して、異なる地域の文化風習に触れ新しい物の見方、考え方を持ってもらえればと思っている。

平和学習として訪問した、摩文仁の丘には、沖縄戦で亡くなった24万人の方を祭っている。中でも、みちのくの塔は、青森県で戦争に参加して無くなった約2万名の方を慰霊している。生徒は事前学習でそのことを学び、みちのくの塔で花束と千羽鶴を献花するとき、真摯な態度で故人に哀悼の意を表していた。全員で

黙祷する姿は、戦争の悲惨さに感じ入っている様子であった。

修学旅行実施前は、生徒の姿を見て、果たして修学旅行がうまく行くか懸念されたが、生徒一人ひとりが自覚を持って行動する姿を目の当たりにして、彼らの成長を感じ、改めて素晴らしい修学旅行であったと実感した。

二学年主任 横浜 学



## 日本代表 大沢君 活躍！



11月9日から16日までハワイ島ワイコロア・キングス・ゴルフコース（18ホール パー72 7074ヤード）にて開催された「アジアパシフィックジュニアカップ」に2年の大沢有介君（八戸東中卒）が参加しました。「アジアパシフィックジュ



ニアカップ」は、日本、米国など環太平洋の国々の高校生の対抗戦で、日本からは、全国高等学校ゴルフ選手権大会等の成績結果等を参考にして男子10名・女子6名が日本チームとして選抜されました。このコースは、要所に黒い溶岩を配置し、深いバンカーと起伏に富むグリーンが手前にあり、風次第で難易度が異なるリンクスで、試合に関しては、ライダーカップ方式（マッチプレー）の国別対抗戦で、各ゲームの結果は各ホールの勝数で決めるものです。最初の2日間は、午前中にフォーボール、午後はフォーサム、最終日は、シングルマッチ方式で行われました。結果は、リンクス特有の強い海風に悩まされ世界ジュニアチャンピオンに一敗したものの1勝1敗1引き分けで、日

本チームが優勝し、大沢君も栄光のカップを日本に持ち帰ることに貢献が出来たと思います。また、次の日に行われたジュニア・アマコンペにおいて、日本チームで唯一のニアピン賞も取ることができました。この大会を通して今まで以上にゴルフに対する考えを再認識し、今後のプレイに大いに生かしてくれると思います。また、今回の開催に尽力して頂いたヒルトンなどの一流の企業およびプロ・アマゴルファー達からなる米国ジュニアゴルフ協会が、ボランティアとして様々な活動に協力し、ジュニアがより強い責任感やリーダーシップを持つことや、多くの場所で社会貢献できる資質を育成していることにもあらためて感動し、帰国しました。（顧問）



# 今年もイルミネーション

本学院がリニューアルしてから始まったイルミネーションも今回で3年目を迎えることになりました。昨年度は八戸市景観賞を受賞し、地域の方々から見守られながらイルミネーションを点灯しました。校舎を背景にくっきりと映え心が和むとの声が地域の方々から多く寄せられました。今年も期待に添えるように12月1日15時50分より十五分間に渡り生徒会、各部活動の大勢の生徒の見守る中、厳かに点灯式が行われました。まず、十月に行われた光星祭カラオケ部門で準優勝した二年S組の「美人3人娘」のカラオケ



から始まり、その後特別ゲスト「イサバのかっちゃん」がアカペラでドイツ語による『歓喜の歌』を熱唱しました。いよいよカウントダウンに突入、今年度のイルミネーションが薄暗い中灯ったのです。吹奏楽部によるハンドベルの生

演奏が行われ、優しい音色に引き込まれるように感じました。イルミネーションは12月一杯灯され、生徒たちの下校時を楽しいものにしてくれました。



## 昨年に引き続き快挙！ 北海道大学 2名合格!!



昨年に続き本校から北海道大学水産学部AO入試に2名の合格者をだすことが出来ました。海の生物の進化やプランクトンを研究する海洋生物学科に館野愛実さん（種市中卒）、また、最近注目されているクローン技術等を研究する増殖生命学科には中崎愛子さん（中沢中卒）です。2名が大学に提出した論文は、ウミネコの行動に関する内容で、単なる座学だけでなく実際に青森県・岩手県の栽培

漁業の体験学習等を通して作成されたものです。

館野さんの論文は、ウミネコの育雛状況を観察した結果、蕪島では気候が異変してもウミネコの育雛状況が変化していないことから、付近における生物多様性の保全がきちんとなされており、多少の自然変化はあるものの海洋の食物連鎖の平衡が実際は維持されていると知り、来年度以降のウミネコの育雛が滞りなく行われると結論づけました。

一方、中崎さんは、ウミネコの行動が生物多様性の保全に関わる問題に関係しており、環境適応性に優れていることから、人間が水産物を食料として永続的に得るためにはウミネコの合理性を学ぶ必要性があると考え、更に生物多様性の維持のためには人間に重大な責任があると論じまし

た。いずれも最近話題の生物多様性に着目し、地域の特長を生かした内容のある素晴らしい論文です。また、今年度北海道大学はノーベル賞受賞者をだしたことで大変人気が出、より難化傾向にあります。その中で2人が合格したことは非常に高く評価できます。また本校の特別進学コースの受験指導が更にレベルアップしているように思われます。今年度はすでに山形大学農学部、青森公立大学経営経済学部等に合格しています。来年度も北海道大学に複数の合格者を、その他の有名難関大学にも多くの生徒が合格できるように、生徒及び先生方が毎日一生懸命頑張っています。 普通科科长 門馬



# 野辺地西高校

## 芸 術 鑑 賞

### ～板橋かずゆきさん コンサート～

芸術鑑賞として、12月20日(月)盲目のシンガーソングライター板橋かずゆきさんのコンサートが本校体育館で開かれた。「だいじょうぶ」「ネバーギブアップ」「野辺地・心想歌」など数曲を熱唱した。生徒たちは、「障害者の人達の手助けを多くしたい」「歌を聴いて元気になった。勇気もらった。」「障害があっても努力すれば自分の夢を叶えることが出来るんだと実感した」などの感想を述べていた。また、同行していた音響担当のスタッフが、「何校か高校に行ってコンサートをやったが、リハーサルの準備のときに器材の運搬の手伝いをしてくれたのは初めてです。」と言っていた。



#### 板橋かずゆきさん プロフィール

- ・1970年2月9日 青森県むつ市生まれ。3歳の頃、視力が弱いことに両親が気づき(緑内障)、6歳で親元を離れ、青森県立盲学校に入学。徐々に視力を失い不安定な日々を送る中、友人からの誘いでバンド活動を始め、作詞や作曲を手がける。
- ・卒業後、病院勤務のかたわら、ライブハウスで歌い始め、様々なミュージシャンと共演。10年勤めた病院を退職し、シンガーソングライターとして本格的に活動し始める。

- ・2005年、第3回ゴールドコンサートでグランプリをあたる歌唱賞を受賞。これを機に、年間1000本を超えるライブや講演の依頼が殺到。
- ・「あきらめない心、強く生きること、そして、分かち合うところ」これらの思いをテーマに、その活躍は全国規模で広がりつつある。
- ・現在、RABラジオ「耳の新聞」、FMむつ、FM田舎館「板橋かずゆきのミュージックベジタブル」のパーソナリティとして活躍。他、町おこし、企業CMソングの制作(代表作:うまいして!大湊海軍コロッケ!)CD・書籍の出版、全国障害者スポーツへの出場など多方面で活躍中。



# 運動部新人戦奮闘記

## サッカー部準優勝

十和田地区のリーグ戦を4勝0敗で順位決定戦へ進み、十和田地区第二代表として、11月5日から八戸地区で開催された県大会に臨んだ。準々決勝では、1対1のまま延長戦、PK戦となった。決勝では、敗れたものの創部以来の準優勝を飾ったと同時に平成23年2月5日より開催される東北新人大会（福島県Jヴェレージ）への出場権を2年連続で獲得した。



### 結 果

|       |         |                     |
|-------|---------|---------------------|
| 1 回 戦 | 五所川原高校  | 0 - 6               |
| 2 回 戦 | 青森高校    | 0 - 1               |
| 準々決勝  | 東奥義塾高校  | 1 - 1<br>(PK 6 - 7) |
| 準 決 勝 | 三本木農業高校 | 0 - 2               |
| 決 勝   | 青森山田高校  | 6 - 0               |

## 女子空手道部

11月12日から弘前市の県立武道館で開催された。

### 結 果

|      |              |
|------|--------------|
| 団体組手 | 3 位          |
| 団体形  | 2 位          |
| 個人形  | 1 位 (2 年 今野) |



## レスリング部

11月5日から八戸市武道館で開催された。

### 結 果

|          |               |
|----------|---------------|
| 個人120kg級 | 1 位 (1 年 坂井)  |
| 個人 60kg級 | 3 位 (2 年 中川)  |
| 個人 60kg級 | 3 位 (2 年 中野渡) |

## ものづくりクラブ

### ～ミニ新幹線発表会～

「ものづくりクラブ」の生徒たちが、12月4日東北新幹線全線開業を前に、「はやぶさ」のミニチュアバッテリーカーを完成させ2日、びわの幼稚園の年長組15人を招いて試乗会を行った。製作を担当した1年次生の若松君が運転士を務め、3人乗りの客車2両に園児たちがかかる

がわる乗車し、手を振ったり、歓声を上げ大喜びであった。

「はやぶさ」は、担当の南教諭の指導を受けながら、夏休みごろから製作を開始した。特に発砲ウレタンで先端の流線型を削り、なめらかにするには相当時間がかかったようだが、同時期に並行して

製作されていた「のへじ祇園まつり」の山車を長年携わってきた簗谷教諭の助言もあり満足のいくできあがりであった。今後、様々なイベントから参加要請があった場合は、快くおもむく予定である。



# 八戸短期大学附属幼稚園



## お ゆ う ぎ 会 power of music ♪ ～虹色の明日へ～



八戸短期大学附属幼稚園「おゆうぎ会」が、平成22年12月12日(日)八戸市公会堂文化ホールで開催されました。

テーマは『Power of music』♪～虹色の明日へ～。たくさんの音楽にふれ、音楽を通して、子どもたちがもっている豊かな感性を、より素晴らしいものにしていこうと、男の子女の子の別なく、おゆうぎや演奏に取り組みました。

おかげさまで、子どもたち一人ひとり全員が、普段の活動と練習の成果を、思い切り発揮することが出来たと思います。

第4回目の今回は、昨年と同じく第一部午前、第二部午後との二部構成で行いましたが、その内容を大きく変えました。これまでにいただいたご

意見や感想、私共の反省などを踏まえ、兄弟や姉妹で在園しているお子さんの発表を、同じ部のプログラムに組み、片方の部で2人の発表が見られるようにいたしました。

保護者やご家族の皆様の鑑賞時間の負担を少なくし、成長の過程も見ていただけるよう、新しい照明を用いたり、エン

ディングの全員合唱の後方スクリーンに園の日々をスライドショーで映写する等、様々な工夫と手法も取り入れました。

「去年の半分の時間で、二人の子どもの発表をゆっくりと観ることが出来た」

「兄弟それぞれの舞台を同じ部で観て、子どもたちの成長がよく分かった」

明るくパワフルな二部構成の発表に、嬉しいご講評をいただきました。

これからも「心の豊かな子」を育み、日々の活動を一層充実させて参ります。



## 聖アンナ幼稚園

### 子どもたちの迎える「クリスマス」

12月の子ども達は、どの子も密かにクリスマスを楽しみにしている姿があります。聖アンナ幼稚園では、待降節という長い期間を様々な形で過ごします。玄関には、紙粘土の“馬小屋で誕生するイエス様”、園中のあちこちにリースやツリーなどで飾り付けをし、手作りのり

んごろうそくなどで準備をします。クリスマスの前に全員での「プレクリスマス」。りんごろうそくに火を灯して、ファーストクリスマスの話を聞き、クリスマスソングと一緒に歌います。そして毎日、お昼にお部屋や玄関でりんごろうそくに火を灯したり、クリスマスに因んだ絵本の

読み聞かせを続けるのです。また、行事のクリスマス会では、ささやかに祝い手作り等のプレゼントを頂きます。更には、子どもたちが作ったクッキーをツリーに飾ったり、食べたりしながら待つのです。大人からみたら少し地味かもしれませんが。でも約3週間の間、すっかり子どもの心



も満たされた精神性のようなものが見えてきます。子ども同士で「サンタさん、ぜったい来るよ。」の会話も聞けるのです。ろうそくの灯をともし時の子どもの姿、りんごの甘い香りを感じる時の様子から、子どもの中に秘める神秘、聖なる心と重なり、言葉だけでは言い表せない感覚を経験しているように思います。クリスマスは、心が落ち着き人間が優しくなるような、だから待ち焦がれていいのではありませんか。





## 第二しなのめ幼稚園

# 保育実践でのびのびと

幼児教育者倉橋惣三氏は（子どもは心持に生きる。それを汲む人、触れる人だけが子どもにはありがたい人嬉しい人である。と語っています。

「先生今日楽しかった」「先生大好き」私たちは、降園時さよならの挨拶と共にこんな子どもたちの声に励まされ毎日を楽しいものにしていきます。

園の教育活動で大切にしていることは、園児の直接体験です。その体験から自分の思いを描いたりした作品をととして、



一人ひとりの心の成長を確かめたいと広く全国の美術展へ出品してきました。この作品は、22年度全国教育美術展において全国審査個人賞の幼児200点に選ばれ特選をいただきました。何度か家族で出かけた、園外保育で行ったことのある八戸公園（子どものくに）で一番楽しかったことを描いた作品です。「観覧車って大きくて、ゆっくり回ってすごく楽しかった」絵を見てわかるように、見ることで発見したこと、またそこから自分の感じた思いが、しっかりとした筆圧のまっすぐな線で、気持ちの緊張と、描きたい思いを表現しています。財団法人教育美術振興会発行の23年度「教育美術」誌の表紙、口絵に掲載されることになっております。ののかちゃんの描いた時の満足感いっぱいの笑顔が印象に残っています。



これから、自分らしい表現に喜びと意欲を持てる子どもを育てる教育環境づくりをすすめていくつもりです。

## びわの幼稚園

# クリスマスお遊戯会

八戸短期大学附属びわの幼稚園では、12月5日(日)、野辺地町中央公民館ホールを会場に第33回を数えるクリスマスお遊戯会を開催しました。

このお遊戯会は、びわの幼稚園3大行事である七夕運動会、びわの祭と同等に位置づけられた行事であり、園児たちは勿論、先生方も公民館ホールの飾り付け設営など2日間をかけてしっかりと準備しました。

当日はホールに入りきれないほどのご家族の方々が目にこられ、園児たちは練

習してきた成果を自信持って自慢げにご披露しておりました。

プログラムは、着物で着飾った年中さんの女の子「桜月夜の桜姫」から始まり、年長さんの「薔薇のフラメンコ」、年少さんの「天装戦隊ゴセイジャー」とそれぞれ練習してきたお遊戯会を楽しく踊りました。

劇では年中さんが「つるの恩返し」、年長さんは「そんごくう」をそれぞれ披露し、特に影絵で見せた、つるの姿には会場から拍手がありました。

お遊戯、劇が終わると園児たちは得意の合奏、歌を元気に演奏し歌い、フィナーレの「あわてんぼうのサンタクロース」、「赤鼻の

トナカイ」のリズムに合わせて登場してきたサンタクロースさんからちょっぴり早いクリスマスケーキをいただき第33回の八戸短期大学附属びわの幼稚園クリスマスお遊戯会が終了しました。



# 光星学院高等学校 第83回選抜高等学校野球大会出場にあたり、ご支援方のお願い

光星学院高等学校 甲子園出場協賛会  
会長 北 向 一 夫

光星学院高等学校硬式野球部は、この度第83回選抜高等学校野球大会への出場校に選ばれ5度目の選抜出場となります。

青森県並びに東北地区代表として、この八戸の地から甲子園で出場する選手はもちろん、甲子園に応援団を派遣することは一大事業であり、各位の賛同を得て「光星学院高等学校甲子園出場協賛会」を発足いたしました。

光星学院高等学校硬式野球部の健闘を期し、また甲子園まで出向く応援団が精一杯の応援ができるよう地域関係者各位のご支援と、温かいご声援を心からお願い申し上げます。



## ※ 協 賛 会 役 員 ※

|                                        |                                                 |
|----------------------------------------|-------------------------------------------------|
| 顧問 八 戸 市 長 小林 真                        | 相談役 八 戸 大 学 学 長 鈴木 宏一                           |
| 顧問 八 戸 商 工 会 議 所 会 頭 福島 哲男             | 相談役 八 戸 短 期 大 学 学 長 蛇口 浩敬                       |
| 顧問 八 戸 商 工 会 議 所 副 会 頭 河村 忠夫           | 相談役 学 校 法 人 光 星 学 院 常 務 理 事 長 法官 新一             |
| 顧問 八 戸 商 工 会 議 所 副 会 頭 吉田 誠夫           | 光 星 学 院 高 等 学 校 校 長                             |
| 顧問 八 戸 商 工 会 議 所 副 会 頭 小野 隆            | 会 長 光 星 学 院 高 等 学 校 後 援 会 会 長 北向 一夫             |
| 顧問 八 戸 青 年 会 議 所 理 事 長 高橋 誠            | 副 会 長 光 星 学 院 高 等 学 校 P T A 会 長 沼田 博章           |
| 顧問 八 戸 市 体 育 協 会 会 長 上田善四郎             | 副 会 長 光 星 学 院 高 等 学 校 同 窓 会 会 長 馬渡麟太郎           |
| 顧問 八 戸 観 光 コ ン ベ ン シ ョ ン 協 会 会 長 笹垣 正弘 | 副 会 長 光 星 学 院 高 等 学 校 硬 式 野 球 部 父 母 会 会 長 川崎 純孝 |
| 相談役 甲 子 園 出 場 協 賛 会 元 会 長 畑中 徳壽        | 副 会 長 光 星 学 院 高 等 学 校 硬 式 野 球 部 O B 会 会 長 関口 寿正 |
| 相談役 甲 子 園 出 場 協 賛 会 元 会 長 大坂 康秀        | 監 事 光 星 学 院 高 等 学 校 後 援 会 副 会 長 上野 栄子           |
| 相談役 学 校 法 人 光 星 学 院 理 事 長 中村 覺         | 監 事 光 星 学 院 高 等 学 校 P T A 副 会 長 先川原靖子           |
| 相談役 学 校 法 人 光 星 学 院 学 院 長 中村 キヤ        | 監 事 光 星 学 院 高 等 学 校 同 窓 会 副 会 長 安井 基悦           |

学校法人 光星学院 理事長  
中 村 覺

日ごろより、地域の皆様には当学院に対しまして、ご交誼を賜り誠にありがとうございます。衷心よりお礼申し上げます。

さて、光星学院高等学校硬式野球部が高等学校野球連盟から第83回選抜高等学校野球大会への出場の際の栄誉を受けました。このことは、学院の喜びであると共にこれまで支えていただいた方々の喜びであります。甲子園出場にあたり、光星学院高校野球部が誇り高く活躍できるように期待するところでございます。皆様のご支援ご協力をお願い申し上げます。

光星学院高等学校 校長  
法 官 新 一

新チームになった本校野球部は、昨秋県下を制し東北の雌雄を決すべく東北高校と大熱戦を演じて、大きな感動を呼び起こしました。結果、2年ぶり5回目の春の甲子園出場を果たすことが出来ました。

この栄誉は、指導に携わった監督・コーチはもとより、なによりも選手たちの日頃の練習の成果であると思います。

甲子園においては、選手一人ひとりがそれぞれの役割を、若々しく、清々しく、そして爽やかに堂々とプレーしてくれるものと期待しております。

また、全校あげてあの甲子園のアルプスタンドに陣取って、ナインに声援をおくりたいと思いますので、皆様の一層のご支援とご協力をお願い申し上げます。

硬式野球部監督  
仲 井 宗 基

おかげさまで、この度、第83回選抜高等学校野球大会に出場させていただきましたこととなりました。これも日頃より地域の皆様方のご支援、ご協力のおかげであり、チーム一同大変感謝しております。

選手たちは日々厳寒の八戸で心身共に鍛錬をし、憧れの甲子園で野球をやるにふさわしいチーム、人間性を目指して頑張っております。

甲子園においては地域の皆様方のご声援を力に変え、正々堂々とプレーし、全国に光星学院高等学校ならびに青森、八戸の名を轟かせたいと思います。

皆様方の一層のご声援とご協力をお願い申し上げます。

○振込先 青森銀行八戸支店 普通預金 3022337  
みちのく銀行白銀支店 普通預金 2617082

青い森信用金庫湊高台支店 普通預金 0119024  
※口座名・光星学院高等学校 甲子園出場協賛会 会長 北向 一夫

◎協賛会事務局 〒031-8507 八戸市湊高台六丁目14番5号 光星学院高等学校事務室  
TEL 0178(33)4151 FAX 0178(35)2859